

第6回 川崎市学童軟式野球たまなみ大会特別規則

1. 大会適用規則

本大会は、2022年度版 公認野球規則・2022年度版 (財)全日本軟式野球連盟の競技者必携の中で、学童部に関する事項及び大会特別規則を適用

2. 大会特別規則

- (1) 試合は6回戦とし、試合開始の「プレイ」宣告後、1時間30分を経過したらそのイニングが最終回とする。
(注) 決められた時間が経過したら、回数に関係なく正式試合とする。
- (2) タイブレーク方式（特別延長戦）
6回を終了して同点の場合、決められた時間が経過して同点の場合はタイブレーク方式を行う。
タイブレーク方式は、継続打順で前回の最終打者を一塁走者、その前の打者を二塁走者とする。0アウト一塁・二塁の状態にして、1イニング行い得点の多いチームを勝ちとする。勝敗が決しない場合は、更に継続打順を行い勝敗が決しないときは、抽選で勝敗を決定する。
(注) 大会運営上6回が終了するか、決められた時間が経過して同点の場合はタイブレーク方式を行わず、抽選で勝敗を決定する場合もある。
(抽選) 抽選は、〇×式とし、〇印の多いチームを勝ちとする。
- (3) 得点差によるコールドゲーム
得点差によるコールドゲームは、3回以降10点差・5回以降7点差とする。
(決勝戦は、5回以降7点差)
- (4) 再試合
試合が5回以前に中止になった場合（ノーゲーム）、また5回が過ぎて同点で試合が中止になった場合（正式試合でタイゲーム）は、再試合を行う。
ただし、以後の試合日程から試合の勝者は、一日2試合を行うことになる。
- (5) 投球数制限
投手の投球については、肘、肩の障害防止を考慮し、1人の投手は一日70球以内を投球できる。継続して70球に達した場合、その打者が打撃を完了するまで投球できる。ボークにもかかわらず投球したものは投球数とする。また、一日でダブルヘッダーや特別継続試合を行う場合や、タイブレークとなった場合、1日70球以内であれば引き続き投球することができる。すなわち通算で70球とする。

3. 打順表と攻守の決定

- (1) その日の第1試合は、試合開始予定時間の60分前までに、第2試合以降は前の試合の3回終了時まで打順表を5通（登録された全員を記入し、必ずふりがなを付けたもの）を監督と主将が大会本部に提出し、登録名簿と照合ののち、球審立会いのもとに攻守を決定する。
攻守決定ののち、4回終了するか1時間経過すればグラウンド内のブルペンで、先発投手のみ投球練習を行っても良い。
(注) 前の試合が早く終了した場合は、次の試合を試合開始予定時刻前に開始することがありますので、試合開始予定時刻30分前には球場に到着して前の試合経過に注視すること。
- (2) ベンチは、組合せ番号の若いチームを一塁側とする。
試合中ベンチに入れる人員は、登録されユニフォームを着用した監督30番
コーチ29番、28番、及び選手20名以内と、チーム代表者、マネージャー
スコアラーとする。
熱中症対策として、保護者(女性)2名以内をベンチに入れることができる。

4. 使用球と用具・装具

- (1) 使用球は連盟公認のナガセケンコーボールJ号とする。
- (2) チームはユニフォーム、アンダーシャツ等は、同色、同形、同意匠の物を使用すること。（連合チームは、背番号を同色、同形、同意匠とすること）
但し、スパイクの色は自由とし、全員同色でなくても構わない。学童部は金属のついたスパイクは使用できません。尚、裾幅の広いストレートタイプのユニフォームは、監督、コーチも含めて使用を禁止する。
- (3) ユニフォームの袖の長さは両袖同一で、左袖に日本字又はローマ字による県名を必ず付けなければならない。また、他のものをつけてはならない。
- (4) バットは、金属バット、ハイコンバットは、JSBBのマークのついた公認のものを使用すること
- (5) 捕手の装具は、SGマークのついた全軟連公認のマスク・捕手用ヘルメットレガース及びファウルカップを必ず装着する事。
- (6) 打者、次打者、走者、ベースコーチは、S・Gマークのついた全軟連公認で両側にイヤーフラップのついたヘルメットを着帽すること。

5. シートノックを行う場合は5分間を限度とします。シートノックのとき、補助員として、コーチ（背番号28、29）も認める 補助員はヘルメット着帽すること
ただし、大会運営上シートノックを行わず試合を開始することがある。

6. その他の取り決め事項

- (1) ファウルボールは、一塁側のものは一塁側ベンチ、三塁側のものは三塁側ベンチ本塁後方のものは攻撃側で処理すること。
- (2) 攻守交代の時には、ボールを必ず投手板近くに置いて交代をすること。
- (3) ベンチ内での電子機器類(携帯電話、パソコン等)、携帯マイクの使用を禁止する
メガホンは、ベンチ内に1個に限り許可する。

7. 試合のスピード化に関する事項

- (1) 攻守交代はかけ足で行い、第三アウトが成立したら、プレーヤーは速やかにベンチを離れて、守備位置に向かうこと
- (2) 守備側のタイムの回数制限について
捕手を含む内野手が、投手のもとへ行ける回数は、3回以内とする。
タイブレーク方式となった場合は、2イニングに1回行くことができる。
往復を駆け足で行いプレイの開始を遅らせてはならない。
- (3) 攻撃側のタイムの制限について、
攻撃側のタイムは、3回以内とし、タイブレーク方式の場合は、2イニングに1回とする。
- (4) 投手の塁への送球
離塁していない塁への送球は遅延行為でボークになる。また無用と思われる塁への送球が度を過ぎると審判員が判断したら、反則行為とみなされる。
- (5) サングラスは、大会本部の承認なしに使用することができる。
但し、帽子にサングラスに乗せることは禁止とする。
- (6) ネクストバッターズサークルでは、次打者はスタンディングで待つが良いがバットを振ってはならない。